

第11回経営・経済動向調査

大阪商工会議所
(社)関西経済連合会

目 次

1. 国内景気.....	1
2. 自社業況.....	2
(1)総合判断.....	2
(2)個別判断.....	3
3. りそな銀行について.....	5
(1)りそな銀行との取引状況.....	5
(2)りそな銀行に望むこと.....	6

1. 調査対象
大阪商工会議所・関西経済連合会の会員企業のうち 1938社
2. 調査時期
平成15年8月26日～9月5日（四半期毎に実施）
3. 調査方法
調査票の発送・回収ともFAXによる
4. 回答状況
544社（うち大企業256社、中小企業288社）
有効回答率；28.1%

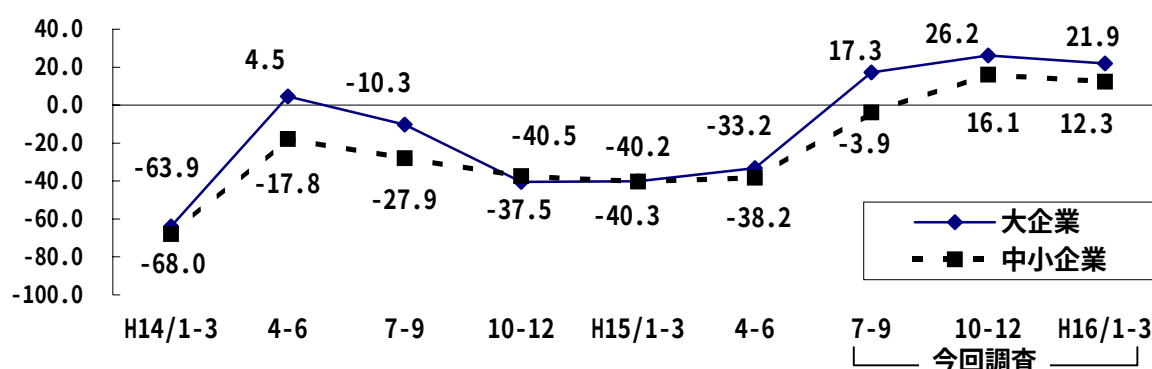
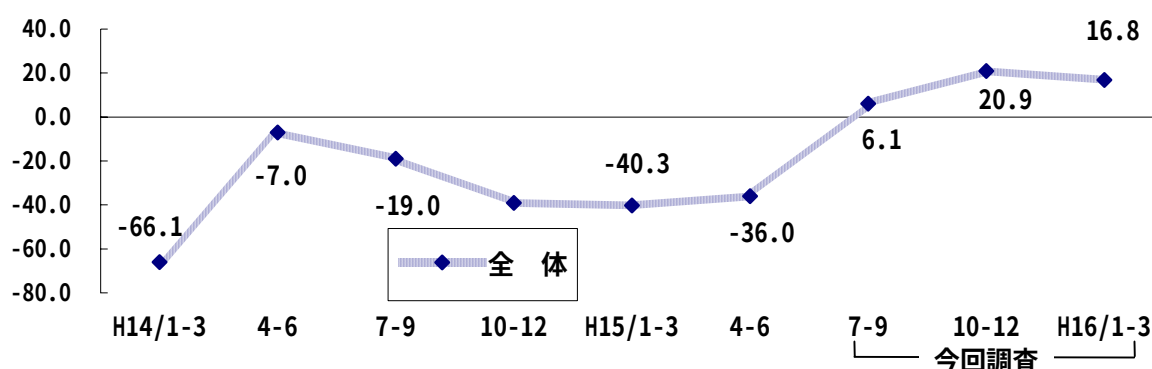
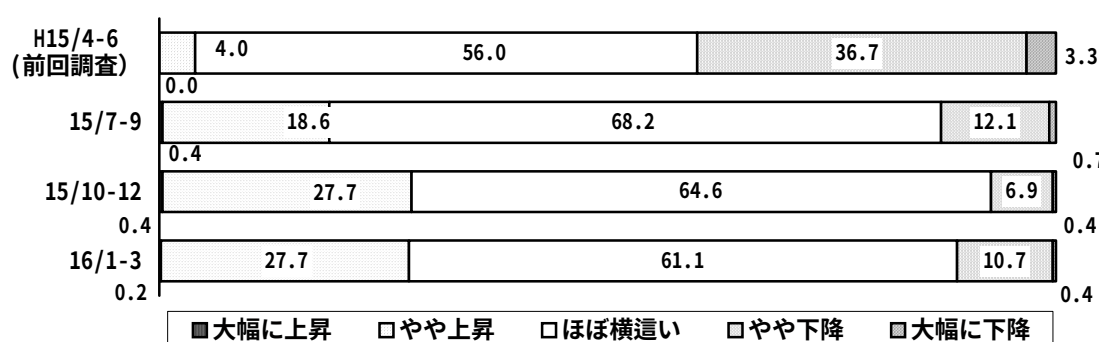
（企業規模分類は中小企業基本法に則り、次を中小企業とする）
製造業等；資本金3億円以下
卸売業 ；資本金1億円以下
小売業・サービス業；資本金5千万円以下

< 今回調査に関するお問い合わせ先 >

大阪商工会議所 経済産業部経済担当 大西・近藤 TEL：(06) 6944-6304

1. 国内景気（表1）

- 平成 15 年 7～9 月期(今回調査の実績見込、以下同じ)の国内景気は、4～6 月期(前回調査の実績見込、以下同じ)と比べ「上昇」(「大幅に上昇」「やや上昇」の合計、以下同じ)と見る回答は 19.0%、一方「下降」(「大幅に下降」「やや下落」の合計、以下同じ)とする回答は 12.8%。この結果 BSI 値(「上昇」回答割合－「下降」回答割合、以下同じ)は 6.1 となり、4～6 月期 (▲36.0) から大幅に改善した。実績見込の BSI 値がプラスになったのは、平成 13 年 3 月に当調査を開始して以来初めてのこと。先行きについては 10～12 月期の BSI が 20.9、1～3 月期の BSI が 16.8 といずれも 2 桁のプラスで推移。国内景気回復への期待感がうかがえる。
- 企業規模別には、中小企業では 7～9 月期の BSI が依然水面下 (▲3.9) であるなど、大企業に比べ厳しい見方となっている。



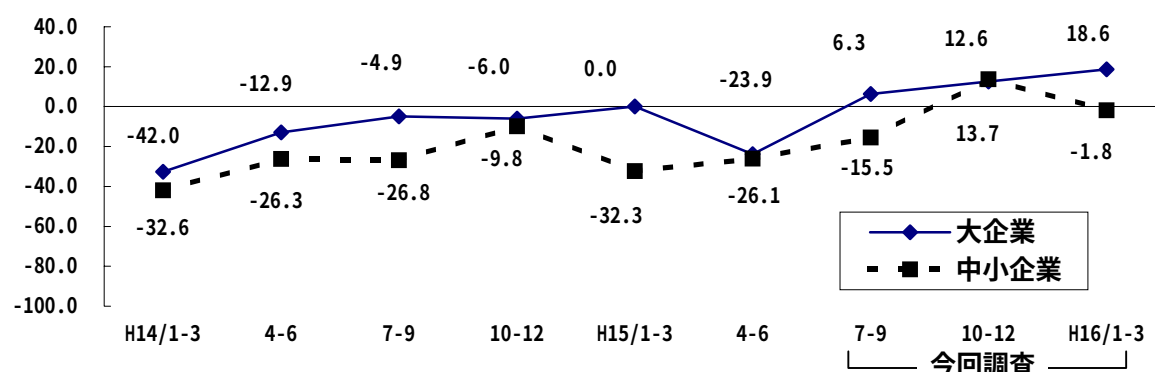
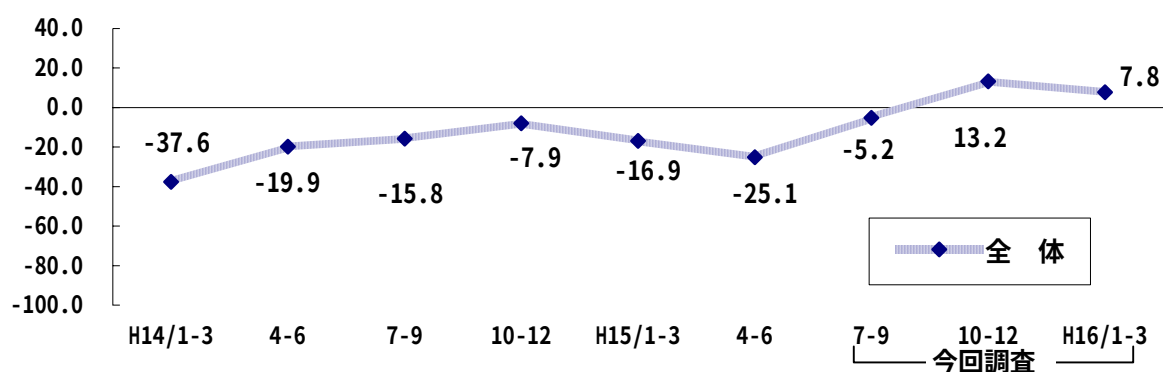
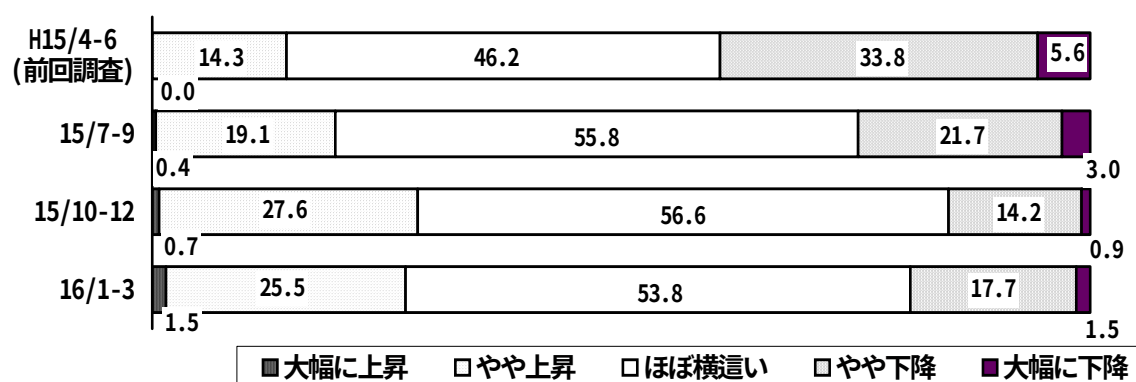
2. 自社業況（表2～表8）

(1) 総合判断（表2）

- 7～9月期における自社の業況を総合的に見て、4～6月期と比べ「上昇」とする回答は19.5%、「下降」回答は24.7%。この結果 BSI は▲5.2 と、4～6月期の▲25.1 からマイナス幅が大幅に縮小した。国内景気に対する見方と比べ、回復感に遅れがあるものの、自社業況に関するマインドも改善している。

先行きについては、さらに強気の見通しが増え、10～12月期が13.2、1～3月期が7.8とBSIがプラスに転じている。

- 企業規模別には、総じて中小企業の方が大企業よりも厳しい見方をしている。とくに7～9月期と1～3月期のBSIは、大企業がプラスであるのに対し、中小企業ではマイナスを示しており、回復感に相違が見られた。



(2) 個別判断 (表3～8)

- 生産・売上高については、7～9月期は依然「減少」(26.1%)が「増加」(21.6%)を幾分上回っているものの、4～6月期に比べると大幅に改善した。先行きは、10～12月期、1～3月期とも「増加」が「減少」を上回り、総じて好転を予測。

生産・売上高		□増 加 □ほぼ不変 □減 少		
H15/4-6 (前回調査)	13.9	41.9	44.2	
15/7-9	21.6	52.3	26.1	
15/10-12	29.5	54.1	16.4	
16/1-3	26.9	48.4	24.8	

- 製・商品の価格については、7～9月期は「下降」回答が依然 21.8%を占めた。4～6月期からは10ポイント近く改善したが、デフレ感はなお強い。先行き「下降」回答割合は漸次減少する見込み。

製・商品の価格		□上 昇 □ほぼ不変 □下 降		
H15/4-6 (前回調査)	3.0	66.3	30.7	
15/7-9	3.9	74.4	21.8	
15/10-12	4.6	78.4	17.0	
16/1-3	3.9	81.2	14.9	

- 経常利益については、7～9月期は「増加」が 20.9%、「減少」が 29.2%と、4～6月期に比べかなり改善した。先行きは、10～12月期にさらに好転を予測するものの、1～3月期は幾分悲観に振れている。

経常利益		□増 加 □ほぼ不変 □減 少		
H15/4-6 (前回調査)	15.4	39.2	45.4	
15/7-9	20.9	49.8	29.2	
15/10-12	25.5	55.7	18.8	
16/1-3	22.5	53.8	23.7	

- 雇用判断については、7～9月期に依然 17.8%の企業が「過剰」としているものの、先行き徐々に過剰感は和らぐ見込み。
企業規模別に見ると、7～9月期で「過剰」とする回答は大企業で 20.4%、中小企業で 15.5%と大企業に過剰感が強い。

雇用判断		□過 剰 □ほぼ適正 □不 足		
H15/4-6 (前回調査)	23.0	73.1	3.8	
15/7-9	17.8	77.6	4.6	
15/10-12	15.1	80.3	4.6	
16/1-3	15.1	78.6	6.3	

- 製・商品在庫については、依然7～9月期は 17.4%の企業が「過剰」と指摘しているが、先行き「ほぼ適正」とする回答が徐々に増加し、過剰感は薄らぐ見込み。

製・商品在庫		□過 剰 □ほぼ適正 □不 足		
H15/4-6 (前回調査)	24.1	74.4	1.6	
15/7-9	17.4	79.4	3.2	
15/10-12	10.6	87.6	1.8	
16/1-3	8.7	90.4	0.9	

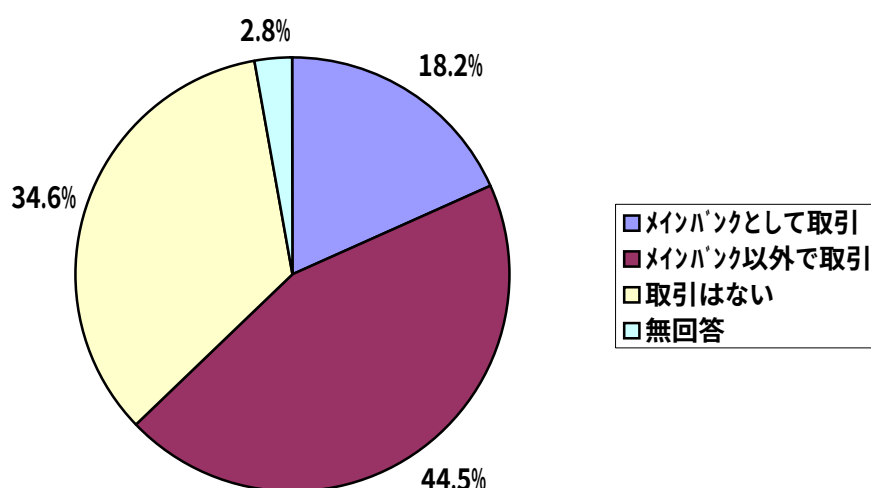
- 資金繰りについては、「ほぼ不変」との回答が先行きも含め8割以上を占めている。
企業規模別に見ると、7～9月期で「悪化」とする回答割合は大企業(4.2%)と中小企業(12.3%)で開きがあり、中小企業の資金繰りの厳しさがうかがえる。

資金繰り		□改 善 □ほぼ不変 □悪 化		
H15/4-6 (前回調査)	8.6	80.6	10.8	
15/7-9	6.9	84.5	8.6	
15/10-12	6.3	86.6	7.1	
16/1-3	6.9	85.2	7.9	

3. りそな銀行について（表9～10）

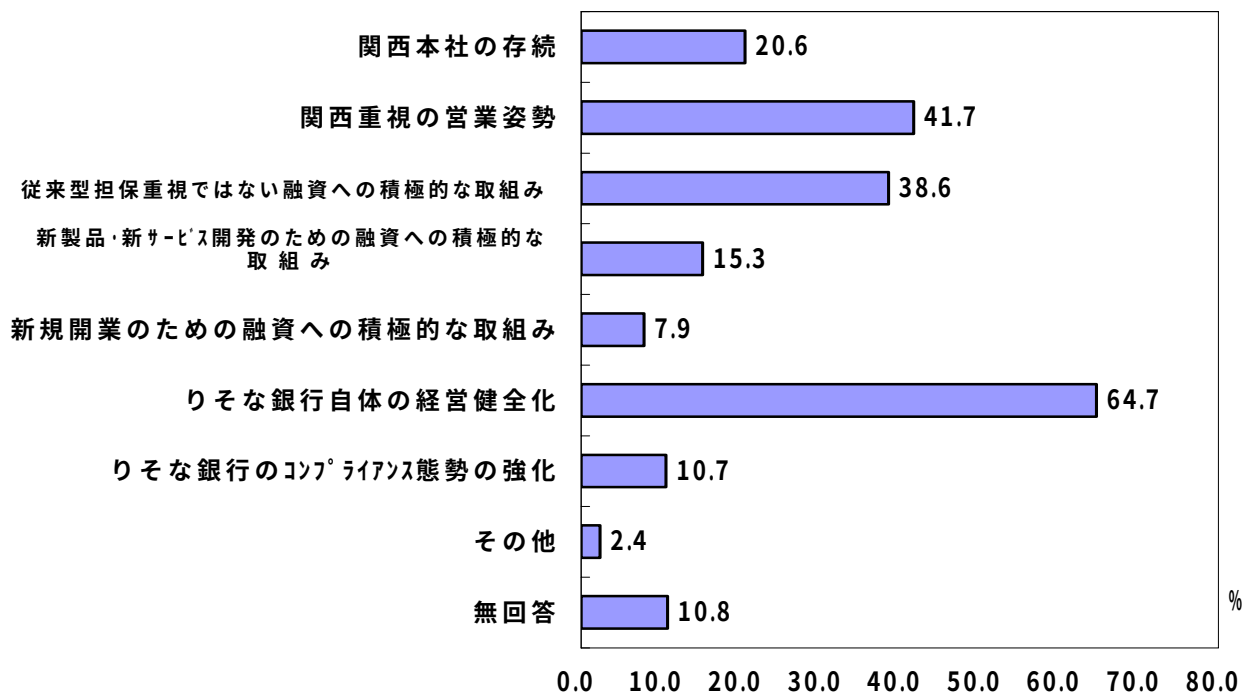
(1) りそな銀行との取引状況（表9）

- 現在りそな銀行と「メインバンクとして取引がある」とする回答は18.2%で、「メインバンク以外で取引がある」と答えた企業（44.5%）とあわせると6割強に上る。りそな銀行と関西企業との深いつながりがうかがえる。
- 企業規模別に見ると、「メインバンクとして取引がある」とする回答は、大企業（15.6%）よりも中小企業（20.5%）に多く、とりわけ中小企業との関係の強さを裏付ける結果となった。



(2) りそな銀行に望むこと（3項目以内重複回答；表10）

- 「りそな銀行自体の経営健全化」を求める声が約3分の2（64.7%）から寄せられ、「関西重視の営業姿勢」（41.7%）や「関西本社の存続」（20.6%）を挙げる企業も多い。他方、「従来型担保重視ではない融資への積極的な取組み」（38.6%）、「新製品・新サービス開発のための融資への積極的な取組み」（15.3%）といった新たな融資に期待する向きも多く見られた。
- 企業規模別に見ると、大企業では「りそな銀行自体の経営健全化」（大企業=68.8%、中小企業=61.1%）が比較的多く、中小企業では「関西重視の営業姿勢」（大企業=37.9%、中小企業=45.1%）や「従来型担保重視ではない融資への積極的な取組み」（大企業=30.5%、中小企業=45.8%）を望む向きが目立っている。



以 上